

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1176501193		
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・与野本町		
所在地	埼玉県さいたま市中央区本町東4-17-4		
自己評価作成日	令和4年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地		
訪問調査日	令和4年10月24日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を感じて頂ける壁面作りをご利用者様と一緒に手作りしたり、ひな祭りや七夕など季節にまつわるイベントの際には職員手作りの仮装を行い、楽しみながら層を感じて頂ける機会を作っています。新型コロナウイルス感染症の影響で運動会や敬老会などの大きなイベントはユニットごとで行うなど規模を小さくしながらも以前と変わらず楽しんで頂けるよう企画し取り組んでいます。体操では職員個々に任せ、ロや足など全身を使える運動や歌を取り入れた体操、風船やボール、タオル体操を取り入れながら、運動が苦手な方でも楽しみながら自然と体を動かせるような取り組みを行っています。また、歌がお好きな方にはCDやDVDを流して一緒に歌ったり、植木いじりがお好きな方には外の花壇を季節ごとに苗植えをお手伝い頂き、成長する過程を見る機会を作ったり、お話しがお好きな方にはニュースや新聞、広告など提供しながらお話しを楽しんで頂いたり、お一人お一人の趣味や特技、興味のあるものを共有しながら、日々の楽しみや充実できる生活に繋げていけるよう取り組んでいます。また、日々のお食事の時間も大事な憩いの場と考え、手作りおやつや季節の果物など、ご利用者様のリクエストに沿えるようイベントを企画し、食べる楽しみを継続して持って頂けるよう取り組んでおります。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR埼京線「与野本町駅」より徒歩10分のところにある、2003年開所の鉄筋コンクリート3階建て3ユニットのグループホームである。玄関前には利用者が育てているマリーゴールド、日々草が植えてあり、みんなで成長を楽しみにしている。コロナ感染症予防に努めてきたが、今年に入り感染者が発生し対応に追われる日々が続いていた。現在は落ち着いており、感染対策を徹底しながら支援に努めている。ブログに力を入れており、利用者の日常や豊富な行事の様子を発信しており、職員共々楽しく暮らしている姿を見ることが出来る。毎日行っている体操で身体機能の低下を防いでおり、訪問時も慣れた様子でかけ声をかけながら楽しそうに行っている方々が見受けられた。今後の目標として、職員全体のスキルアップ向上に向け、階層別研修を行い経験に応じた技術や意識の底上げを目指している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議や日々の申し送りの中で、事業所理念、事業所目標を振り返る場を作り、職員同士で共有している。ユニット入り口、スタッフルームに掲げ、認識し直せる機会になり、日々の業務に活かせるようにしている。	「ゆっくり、一緒に、楽しく」をホームの理念とし、いつでも見ることができるようエレベーターホールに掲示してある。利用者のペースに合わせて毎日の生活やレクリエーションを楽しむことができおり、理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の影響があり、交流ができない状況となっているが、例年は夏祭り、敬老会、ハロウィン、卒園式等の季節ごとの行事で近隣保育園との交流を図り、地域のボランティアの方にも訪問して頂きながら、少しずつ交流に繋げられる機会を深めている。	ホーム周辺で散歩の時に会う方々に挨拶を交わしている。近所の方から椅子を寄付していただき、玄関先に設置している。年2回、オーナーの協力で施設周りの草木の手入れや庭の切り花をいただいたりしている。近隣の保育園から毎年敬老の日のプレゼントが届いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所看板やブログなどを用いて、事業所で行っているレクリエーションや催し物などの発信を行い、認知症やグループホームの理解へと繋げられるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症により中止している。ホームの近況や取り組みなど、ホーム便りや個々の連絡の中でお伝えしている。例年の運営推進会議では、多くのご家族様にご参加いただき、地域包括支援センターや高齢介護課を交え、ホームの状況や取り組みを報告し、意見交換を行っている。	コロナ前は家族参加のランチ会後に運営推進会議を開催し好評を得ていたが、現在は外部メンバーの参加はなく、家族からの意見をまとめ、記録を作成している。行政にはFAXで意見を聞いている。	会議の開催ができない状態のため、方法を工夫し、外部からの意見が聞けるような取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	さいたま市主催の研修に、できる限り参加し、事業所内の状況やご利用者様へのサービスの取り組みを伝えていながら、情報交換や市町村との連携が図れるよう、取り組んでいる。	コロナにより市とは主にFAXでの情報交換を行っており、市主催の研修に参加したり、ホームの状況を伝えている。介護保険の更新や申請等の必要な書類提出があるときは届けに行き、良好な関係作りに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回、研修を2回行い、議題に沿って職員一人一人の意見や感想を出し合いながら、身体拘束をしないための意見交換や日々の取り組みにおける再確認の場を作り、正しく理解する勉強会を行っている。	身体拘束の研修を行っており、参加できなかった職員は会議録やリーダーからの報告で全員が周知できるようにしている。以前は玄関に鈴をつけて対応していたが、利用者の無断外出等の危険を防止する為、玄関やフロアの出入口は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を年3回、研修を年2回行い、どのような場面で虐待が起こりうるか、日頃のケアや言葉かけを見直しながら、初心に返り、職員間での意識を高め、周知できるようにし、事業所内の虐待ゼロに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されている方がいる。日頃から、ご利用者様のご意向やご様子などご家族様や関係者様にお伝えし双方の関係が維持できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に事業所見学、面談でのご利用者様やご家族様との話し合いの場で、不安点や疑問、意向など十分な説明と話し合いを行いながら、お互いの理解を深められるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が日用品や差し入れを持参される来訪時や電話連絡の際など、コミュニケーションを図り、ご要望やご意見を随時汲み取れるよう努めている。お客様相談室のフリーダイヤルへのご連絡など運営に反映できるよう取り組んでいる。	職員は日々の会話の中で利用者の意見を聞くようにしている。食べ物についての希望が多いため、おやつ作りなどで対応している。家族の意見は電話や訪問時に聞いており、外部への相談窓口については契約時に説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議だけでなく、申し送りや連絡ノートを活用しながら、誰でも意見を出しやすい場を設けている。日々のふとした時間にフロアを回りながら職員と話す中で、小さなことでもその都度、汲み取れるよう努め、本部に伝えながら運営に反映できるよう取り組んでいる。	職員からの意見は会議やホーム長の巡回時、申し送り時などで聞いている。出された意見や課題などは会議で話し合い、事案によっては本部マネージャー等に相談して課題解決を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	人事考課を年2回行い、職員自身の振り返りの場を作っている。日頃の勤務状況や意見や要望をヒアリングしながら確認し、各自が向上心を持ち、やりがいのある職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員のスキルや力量を把握し、苦手な分野の克服やケアの質を高めるために事業所内外の研修に参加できる機会を設け、職員のスキルアップに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やヘルプ等で他事業所に行く機会を作り、同業者と交流する機会を作っている。その中での気づきや実践状況を知り、意見交換を行える場として互いを高めあえる取り組みに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の思いや不安をその都度お聞きしながら、随時モニタリングを行い、安心して頂ける環境作りと職員間の共有を行いながら、ご本人様にとって安心感が持てるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様の不安や要望について話し合い、解決に導いていけるよう努めている。入居後の様子をお伝えしながら安心して任せることのできる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様やご家族様の要望や意向をお聞きし、初期段階として何が必要かを見極め、反映できるよう確認しながら提案し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所理念である「ゆっくり・一緒に・楽しく」を念頭に、ご利用者様と職員が共に行い、一緒に共有し合う中で一方の立場にならず生活を共にする者同士として信頼関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の日頃の様子や気付いたことをこまめにご家族様にお伝えしながら情報共有し、ご利用者様の状態を一緒に考え、共に支援し合えるような関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも連絡ができる環境を作り、ご家族様やお付き合いのあったご友人などご家族様の協力や事前聞き取りのもと、電話や手紙でやりとりを続けられるよう支援している。以前は馴染みの美容院やご自宅に帰る機会もご家族様の協力のもと行っていたが、新型コロナウイルス感染症のため、現在中止している。	家族や友達からの電話や手紙の取次ぎなどの支援を行っている。利用者は孫の手づくり品や写真を部屋に飾り、楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席を工夫したり、会話の橋渡しを行いながら、ご利用者様同士の輪が広がるよう支援している。お話が困難な方でも皆さんと寄り添いながら一緒に過ごせる空間を作れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後でもこちらから連絡を行い、ご家族様にとっていつでも連絡がとりやすい事業所である環境を作り、ご利用者様やご家族様の様子や近況を電話や手紙を通じて確認し、相談支援に繋げられるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各ご利用者様に2名の居室担当者をおき、日々の様子や意向を普段から密に読み取れるよう細かくモニタリングを行い、生活記録やフロア会議、申し送り等での話し合いを反映しながら、ご利用者様本位のケアが提供できるよう努めている。	居室担当者は担当利用者を観察し、細かいところまでを把握しており、家族へのお便りに気付いたことなどをコメントしている。コミュニケーションが困難な方には、表情や動作を見て、いつもと異なる場合などは職員間で話し合い検討して対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご自宅にいた時の生活やご様子をご利用者様やご家族様に伺いながら、ご利用者様の暮らし方を尊重し今までの生活環境に近づけられるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の連絡ノートや生活記録を活用しながら、ご利用者様の状態や生活リズムなどを把握し共有している。日々の様子や表情・言動から小さな変化に気付けるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングの結果をもとに、訪問診療医や訪問歯科医等の関係機関の意見や指示を取り入れながら、ご利用者様とご家族様の意向に沿い、現状に合った介護計画書を作成している。	入居前にホーム長や計画作成担当者が情報を収集し、意向を確認して新規の介護計画書を作成している。定期的にモニタリングを行ったり、訪問診療医からの注意事項や指示も計画書に反映させ、職員間の意識の共有化を図ってサービスの提供や支援をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット内で記録類を管理しており、誰でもすぐ確認できるようにしている。介護計画表に基づいたケアを職員が意識し、個々に記録する中で実践状況を確認しながら職員の共通理解に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージや訪問リハビリ、シニアセラピーなど専門職や医療機関にアドバイスを頂き、連携を図りながらその方のニーズに合わせた対応ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響で地域交流ができていない状態だが、例年は定期的に地域のボランティアの方の来訪や保育園児との交流を図り、地域の中で安心して楽しい生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様やご利用者様本人が希望される医療機関やかかりつけ医を確認し、主治医を選出している。ご本人様・ご家族様・主治医・職員との間で情報を共有し、適切な医療の提供ができるよう対応している。	本人や家族が希望する病院や必要な受診は原則、家族の対応としている。通院の際に医療面の情報など必要な情報を提供しており、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問する医療連携看護師に日常の変化や気づき、状態の報告を行い、助言を受けながら適切な対応、看護が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関を定め、入院時に安心して医療を受けられるよう対応している。入院中は病院関係者やご家族様と情報交換を行い、早期退院に繋がれるよう連携を密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針を定めたものがあり、入居時にご家族様に説明を行っている。事業所で対応できること、できないことを含め、状態に応じてその都度ご家族様や訪問診療医と話し合い、ご利用者様にとって一番良い対応に努めている。	ホームでの看取りを希望される場合は、医師や家族との相談を重ねて終末期のケアを行っている。現在は看取りの対応者はいないが、近くの訪問診療医の協力により、夜間でも連絡が取れる体制があり、これまで穏やかに最後を看取ってきた事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルがあり、急変時や事故発生時における体制があり、マニュアルを使いながら会議や研修の中で起こりうる事例をシミュレーションし実践できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防隊による指導を受けながら、年2回の避難訓練を行っている。夜間を想定して夜勤者一人の場合での避難方法を訓練し、危険意識を身につけて全職員が実践できるように取り組んでいる。	年2回避難訓練を行っている。7月に夜間想定火災訓練を行い、12月は水害を想定し3階への垂直避難を検討中である。避難先である小学校への経路確認をしており、各階に食品、水を備蓄し、懐中電灯やラジカセの準備もしている。	近隣に避難訓練のお知らせのチラシを渡す際に近所の方の訓練参加や災害時の協力を募って、近隣の協力体制が築けるようになることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、その方の状況やその方に合わせた声掛けを行い、個人の尊厳を損なわないように対応している。トイレ時や居室で過ごすプライベート空間においても気持ちに配慮しながら声掛け、見守りを行っている。	トイレ誘導時にタイミングをみてさり気なく声掛けをしている。入浴支援では本人の希望を確認して要望に応じて同性介助を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせた言葉掛けや選択肢のある声掛けを行い、できるだけ自己決定できるよう職員は助言に留め、対応している。表情や行動で気持ちが読み取れるよう寄り添う時間を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本となる日課はありますが、その都度言葉かけを行いながら、ご利用者様の生活ペースを尊重できるよう支援している。体操やレクリエーション時はお誘いし過ごし方の幅が広がるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の化粧水や乳液、ハンドクリームなど使用して身だしなみを整えたり、好きな衣類を選んで着て頂き、ちょっとしたお化粧品をお手伝いさせていただく機会を作っている。マニキュア塗りを定期的に行い、好評の声を頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本日の献立をフロアに飾り、毎日の話題に取り入れ、食事の楽しみに繋がるよう支援している。ご利用者様の号令と一緒に食事し、テーブル拭きや下膳のお手伝い、食器拭きをして頂いている。また、ご家族様に毎月の献立を送付し、ご利用者様と電話する際など話題作りの一つとなっている。	利用者に合わせた食事の形態(常食、一口大、刻み、ミキサー食)で提供している。個々のリクエストに対応したり、パンを使用したおやつ作りをするなど、食事が楽しみなものになるように工夫している。季節に応じたイベント食などを提供し、喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の状態に合わせて食事量や水分量を記録しながら把握し、残存機能やお食事のペースを見極めながらご利用者様に合った食事形態を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医、歯科衛生士の口腔状態の説明や指導のもと、個々にあった口腔ケアに努めている。お声かけをすると磨ける方、うがいや仕上げ磨きのお手伝いを必要とする方など、見極めながら支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用しながら、お一人お一人の排泄パターンや排泄リズムを把握し、ご利用者様のお気持ちに配慮しながらお声かけや誘導を行い、昼夜ともにトイレでの排泄に向けた支援を行っている。	排泄表を参考にして、できるだけトイレでの排泄を心掛けて誘導している。睡眠を妨げないように配慮しながら、夜間でもトイレでの排泄を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な水分補給、乳酸菌飲料の摂取をしながら、運動等で体を動かす機会を作り、できるだけ自然な形で排便できるよう努めている。個々の排便周期を把握し、主治医に相談しながら下剤の服薬管理を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴されることを事前にお聞きし、好みに合わせた湯温の調整や入浴剤を使用しながら、ゆっくり入浴して頂いている。ご利用者様個人のお好きなシャンプー、石鹸、乳液などの使用も行っている。	週に2回の入浴支援を行っており、利用者の希望に合わせた時間で対応している。入浴剤や柚子湯、菖蒲湯などで香りを楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の休みたい時に居室で休息できるよう、室内の室温管理を行いながら、安心して過ごして頂けるよう支援している。日中の生活状況や活動時間を見極め、夜間の安眠に繋げられるよう支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方時に主治医や薬剤師からの指示や薬の使用法、副作用等、職員間での周知を行い、さらに薬表の確認も行っている。服薬によるご利用者様の変化など、敏感にすぐ察知できるよう各自、確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様やご利用者様から生活歴をお聞きし、得意とする分野(歌や家事手伝いなど)を行えるよう支援し、ホームでの生活で新たな一面やお好きな取り組みが発見できるよう取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	お天気のいい日には、事業所の周りを散歩したり、ホーム前の花壇の植え替えや水やりなどをして頂いている。季節によってはイスを置いて外気浴を行っている。以前は近隣のラーメン屋やレストラン等へ外食する機会を作っていたが、新型コロナウイルス感染症のため、実施できていない。	コロナ感染防止のため、外出は近隣の散歩や家族との通院程度となっている。玄関前で外気浴を行ったり、プランターで育てている季節の花を楽しんだりしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失や盗難、勘違いによるトラブルが起こりうるため、施設内の貴重品の持ち込みは禁止になっている。近隣での買い物や日用品の購入はご家族様にお伺いしながら、購入方法を決めてお好きなものや必要なものを購入する形で支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	話したい時に電話ができるよう、事前にご家族様に了承を得て、電話で話して頂き、身近にご家族様を感じて頂けるような支援を行っている。携帯電話をお持ちの方は、お好きな時にご家族様とやりとりができるよう支援している。ご家族様からはがきや手紙をお渡し、電話で返事をされる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにはご利用者様と一緒に手作りした季節を感じて頂ける壁面飾りを行っている。飾った壁面から、季節の話題や思い出話など話に花が咲くような空間作りを行っている。適切な室温で馴染みのある音楽を流しながら、安心して過ごせるよう取り組んでいる。	フロアには大きな窓があり明るく開放的であり、適切な温度・湿度の調整を行って居心地よく過ごせるようにしている。季節ごとに利用者と作成した壁飾りを共用部分の壁に掲示し、季節感を味わっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの窓際やフロア内にソファやイスを置き、お一人でも、気の合う方とでも、自由に過ごして頂けるような環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた収納棚やテレビ棚、ソファやぬいぐるみ、写真等を居室に置いて、室内のレイアウトなどに考慮し、なるべくご自宅にいた時と変わらず居心地良く過ごして頂けるようご家族様やご本人様と相談しながら行っている。	居室には備え付けのクローゼットなどがあり、生活に不自由がないようになっている。好きなものを持ち込んでいただき、居心地よく過ごせるような工夫をしている。孫が作った作品を飾る棚を持ち込んでいる方など、日々の楽しみとなるよう住環境の整備を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日の申し送りや日々の会議の中でご利用者様お一人お一人のできることを職員間で共有できる場を設け、ケアの話し合いをし、できるだけ自立に向けた安全な生活が送れるよう努めている。		

### 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	新型コロナウイルス感染症により運営推進会議の開催が出来ていない状態であり、外部からの意見が聞けるような取り組みに欠けている部分がある。	会議が出来ない状況の中で、外部(地域・行政等)との連携作り。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部からの意見が汲み取れるよう、ブログやFAX等で日々の様子や近況等ホームでの取り組み等を知って頂く機会を作る。</li> <li>・ネットやメール、FAXでの行政からのお知らせ等最新の情報にアンテナをはり、疑問点や聞きたい情報等やり取りできる連絡体制を作れるようにする。</li> </ul>	6ヶ月
2	35	避難訓練の参加や災害時の際に近隣との協力体制の構築に欠けている。	新型コロナウイルス感染の状況もふまえながら、収束時には近隣の方との連携がとれる体制作りに努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の方へ認知症対応型グループホームの存在を知っていただく。</li> <li>・コロナの状況を見ながら、避難訓練のお知らせだけでなく、参加を募ったお知らせ文の配布を行っていく。</li> </ul>	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。